

臨地実習（プライマリ・ケアNP）

[実習] 1年～2年 前後期 必修 90時間 2単位

《担当者名》塚本 容子 [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

高度実践看護学特論・演習で学修したことを活用しながら、高度実践看護師としての資質を高めるため個人の实習課題を明確にし、臨床現場で実習を行う。この実習において、プライマリ・ケアの実践現場である訪問看護ステーションでの実習を通じて、ナース・プラクティショナー（NP）としての役割開発を行う。

【学修目標】

1. 在宅療養患者に対して、包括的にアセスメントし、今後必要な医療について、また心理社会的支援について判断できる。
2. 在宅療養患者に対してアセスメントし、これまでの現病歴及び既往歴を鑑み、必要な薬剤について確認し整理できる（ポリファーマシーへのアプローチ）。
3. 在宅療養患者の家族のアセスメントし、家族への支援について判断できる。
4. 在宅療養患者が呈する突発的の症状に対してアセスメント、及び判断できる。
5. 訪問看護ステーションにて実践しているNPの指導の下で、多職種連携についての実際を理解する。
6. 訪問看護ステーションにて実践しているNPがどのように特定行為を実施しているのか実際を理解し、手順書を作成する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	【実習方法】	指導教員の下、個人の实習課題、到達目標を鑑みながら明確にし、実習計画を立案し実習を行う。実習終了後には、実習計画内の自己目標の到達度についての今後の課題を明確にしながらレポート作成する。実習先では、実習指導者の指導・助言のもとに実習を行う。	塚本
	【実習内容】	実習の内容は、実習目標到達を目指して以下の項目に焦点を置き実施し、実施した内容をレポートとして提出する。 1. 実習中で経験した事例1例について包括的アセスメントについてまとめ、家族を含めた支援方法について考察する。その内容をレポートとして提出する。 2. 実習中に経験したポリファーマシーに関する事例1例について、必要薬剤について薬剤の相互作用も加味し、患者にとって必要な薬剤について考察する。その内容をレポートとして提出する。 3. 実習中に経験した突発的の症状（例：発熱、腹痛など普段ない症状）を呈した事例1例に対して、アセスメントからその対応、また予防が可能な場合再発予防についてレポートとして提出する。 4. 訪問看護ステーションでは、ケアマネジャーや医師をはじめ多職種連携が重要であるが、事例1例を取り上げ、多職種連携についての在り方についてレポートとして提出する。 5. 実習中で経験した特定行為1つを取り上げ、手順書を作成する。これについては、実習指導者の指導を受け、評価を受ける。	塚本
	【実習場所・実習指導者】	恵み野病院 訪問看護ステーション NP・樋口 秋緒	塚本
	【実習期間】	2週間から4週間 但し、集中実習か分散実習かについては、学生の实習課題や学修状況により相談、決定する。	塚本

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

観察評価50%、レポート・プレゼンテーションによる評価50%

【教科書】

特になし

【参考書】

特になし

【学修の準備】

必要な文献・資料等に目を通しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。